

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者	当該科目に関する実務経験
保育実習Ⅰ（施設）		（講義・演習・実習）	柳田 真理子	保育士
			青田 由美子	保育士
授業の回数	時間数（単位数） 80 時間(2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] - 施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深める。 - 施設の意義と今日的役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] - 実習を通して利用者の生活を理解する。 - 実習を通して福祉施設の内容や機能を理解する。 - 実習を通して保育士・施設職員の役割と連携を理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] - 施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。				
[実習方法] - 施設での生活に参加することにより、一日の流れを全体的に理解し、利用者の生活の観察、職員の業務の観察を通して支援の在り方を学ぶ。 [実習段階の具体的な内容] ① 見学・観察実習 施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにともなう職員の対応を把握する。 ② 参加実習 担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育（養護）の援助を学ぶ。 ③ 責任実習（部分実習） 施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。 [実習の課題] - 利用者の生活を理解する。 - 日課に沿って保育士・施設職員の活動を多面的に理解する。 - 自ら準備した課題を保育の場で実践する。 - 保育士を志すものとして自覚を高める。				
[使用テキスト・参考文献] - 実習の手引き ・ 保育所施設実習ハンドブック（萌文書林） - 適宜、プリント配布				
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 - 考查点(75%) - 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。 - 平常点(25%) - 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 - 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。				